

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第21回)
仮置場WGの活動報告

開催概要

□ 目的

仮置場の設置・運営に関する課題について意見を交換し、解決策を検討することで、自治体の災害廃棄物処理の対応力を高め、災害からの早期復旧を目指すことを目的として開催した。

□ ワーキングメンバー

市町村 8自治体10名

□ 開催日程・内容（オンライン開催）

実施回	内容
第1回 令和7年10月2日(木) 15:00-17:00	話題提供:仮置場の重要性について 等 意見交換①:仮置場候補地選定に係る課題と解決方法 意見交換②:仮置場の管理運営に係る課題と解決方法
第2回 令和7年12月19日(金) 13:00~15:00	話題提供:災害廃棄物収集一仮置の方法 等 意見交換①:自市町村で仮置場を設置・運営する際の 課題抽出 意見交換②:平時に自治体で実施できる災害対応力の 向上の方策

第1回 仮置場WG

話題提供テーマ 仮置場の重要性等について

意見交換議題 仮置場候補地の選定に係る課題と解決方法

必要面積の確保、住民の理解、冬季の対応、運搬経路等に関する多くの課題、懸念事項が挙げられました。

課題	解決策
必要面積の確保について - 沿岸部以外、平地がそもそも少ないため仮置場が正式に決まっていない。 - 市有地では面積的に不足する。国や道有地を紹介してもらえないか。 平地は浸水リスクがあり、丘陵地帯は面積が足りない。 - 仮置場候補地が少ない。	- 発災後すぐに使える場所を選ぶことが重要では。 避難所と併設でも良いのでは。 - 学校の統廃合により仮置場候補地となる場所もできる可能性もある。
地域住民との調整 - 候補地に係る町内会への説明、パブリックコメントの対応に労力がかかる。 - 仮置場と周辺との調整が難しい。	
手続き 候補地にする手続きが煩雑である。	
他計画との整合性 - 策定済みの処理計画で決められた候補地が適切か検証できていない。 - 地域防災計画との整合性を取る必要がある。	
冬季の対応 - 候補地としている場所は、冬季雪捨て場になるため、冬季の災害で利用できるか分からない。 - 雑草処理、冬期は除雪が必要となり課題である。	
運搬経路 - 道路啓開に時間を要する。 - 処理施設が被災した場合の対応を明確化できていない。 - 津波被害の場合、候補地にアクセスできなくなる可能性がある。 - 高台に資機材を準備するには搬入路が限定される。 - 沿岸部の低地には仮置場の設置が困難(高台は過疎化し、低地は開発されている)。	
資機材 資機材の確保が困難。調達方法が未定である。	
その他 国、道レベルでの対策が必要ではないか	



第1回 仮置場WG

意見交換議題 仮置場候補地の管理・運営に係る課題と解決方法

平時の管理、災害時の人員配置、役割分担、冬季の対応等について多くの課題が挙げられました。

課題	解決策
平時の管理	- 避難場所の候補地との競合が課題になる。余った土地は雑草等管理の手間がかかる場所である。 - 平時から管理を行う予算がない。 - 平時の丁寧な管理が難しい。 - 周辺住民から要望のない限り、平時に草刈り等はできていない。 - 平時利用されている土地は管理を行いやすい。
災害時 人員配置	- 人員が限られるため、点在する仮置場への人員配置が難しい。 - 夜間の管理 - ボランティア受け入れ、廃棄物に詳しくない人材の配置について課題がある。 - 廃棄物について知見、経験のある人材の確保できるのか。 - 災害廃棄物協定に基づき建設協会等と仮置場の管理について協定を締結しているが実際、人員配置できるか懸念がある。 - 大規模災害が想定されるので人員の確保が困難。 - 最終処分場の事業者へ委託すると円滑に進むのでは。 - 防災部門と協議して必要人員を割り振る。 - 民間、収集運搬事業者との協定を締結し支援してもらう。
役割 分担	- 発災時の補助金対応を課内で行うのか、補助金に詳しい部門が担当するのか、役割分担ができていない。 - 災害廃棄物処理計画策定、防災計画策定、市有地の管理がそれぞれ異なる部署のため、調整が難しい。 - 防災部門との人員配置の調整が必要になる。 - 補助金に詳しい部門が担当する。平時に協議を行い、処理計画に記載する。
冬季の 対応	- 冬季の管理について、災害廃棄物処理計画に記載しているが、実際は対応が難しいこともあるのではないかな。 - 冬季の管理について災害廃棄物処理計画に記載するのか、BCPに記載するのか不明確である。
その他	- 処理計画はあるが、実効性は未検証である。 - 計画策定の意向はあるが災害シナリオが大き過ぎる。 - 治安が悪くならないか(便乗ごみ等が投棄されないか。) - 補助金事務の簡素化(国の対応)

第2回 仮置場WG

話題提供テーマ 災害廃棄物収集-仮置の方法

意見交換議題 自市町村で仮置場を設置・運営する際の課題抽出

- ✓ 仮置場設置訓練、第1回WG意見交換を踏まえて検討

訓練を踏まえて、仮置場までのルート、舗装されていない土地での対応について挙げられました。

訓練を踏まえて感じた課題

仮置場選定	• 前回の設置訓練を踏まえ場所の変更を検討しているが、今の段階だと適当な場所が見つからない。
仮置場(候補地)の管理	• 導入路において、今一度検討必要なところがある。 • 草刈りが必要。
資機材の確保	• 資機材をある程度、国や北海道が準備してほしい。 • 敷き鉄板は必要とおもわれるが建設協会とも調整しても数を集められるかが疑問がある。 • 候補地を管理するための資機材の予算確保が困難。 • 舗装されていない場所を候補地としているため敷材が必要になる。
盗難・不法投棄対策	• 外国人の鉄くず回収業者が離農した農家を狙って勝手に農機具を回収しているという話を聞く。夜間はゲートを閉めるなどして、不法投棄対策と併せて盗難対策を行いたい。 • 違法な廃品回収業者の対策をする。
衛生対策	• 季節によっては、堆積したごみに害虫が発生する可能性も考えられる。防疫対策も必要か。
冬季対応	• 雪捨て場を仮置場候補地としているため、冬季対策が必要である。 • 運搬ルートの天候次第(ホワイトアウト)では受け入れできないこともあるのでは。
分別	• 充電池の混入等の対策が必要。



訓練後の土地の様子
(雨でぬかるんでいる)

第2回 仮置場WG

意見交換議題 平時に自治体で実施できる災害対応力の向上の方策

訓練を踏まえて、必要な資機材の優先順位付け、職員向け訓練、広報、事業者との具体的な連携が重要だと意見が挙げられました。

課題対応の方策

資機材の確保	- 資機材の確保は、単一市町村では限界があるので、広域での対応ができるとよいと思う。災害のないところから、災害のあったところへの支援が大事。 - 資機材の搬入ルートの特明確化。事業者との取り決めが大事。 - 資機材を持たない前提で回す運営手順の整理が必要。 - フェンスや看板、照明等が十分に揃わない状況を前提に最低限で区画を成立させる方法、優先的に必要な資機材の順位づけを整理し、簡易運営マニュアルを作成する。
衛生対策	仮置場合めて、被災地域の防疫対策としてペストコントロール協会との協定の締結を検討する。
分別	充電池対策については、市民への分別徹底の周知を平時から進めるとともに、発災時は仮置場の担当職員内でも意思統一を図ることが必要。
訓練	- 職員向けの防災訓練に、仮置場の設置訓練を盛り込む。 - 国や道で開催する研修等に積極的に参加。防災訓練などを活用し、組織や連絡体制の確認・強化。市民に対し、地域防災訓練や防災講座などを通じ、災害廃棄物の適正排出等の事前啓発をする。
広報	災害時のごみ分別手引きや仮置き場利用のお知らせチラシを作成するとよいのでは。
知見の共有・マニュアル化	これまでの被災市町村の対応状況を各市町村に共有する、基本的なマニュアル、参考資料があると良い。
事業者との連携	事業者との協定を具体的に進める。